別添

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- 調査結果の比率(%)の数値は小数第２位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- 複数回答の設問では、その比率（%）の合計が100%を上回ることがある。
- 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- 《　　》は、２つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

（例：問14で「以前から行っておらず、今も行っていない」と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」を合わせたものを《行っていない・行わなくなった》と表現している。）

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

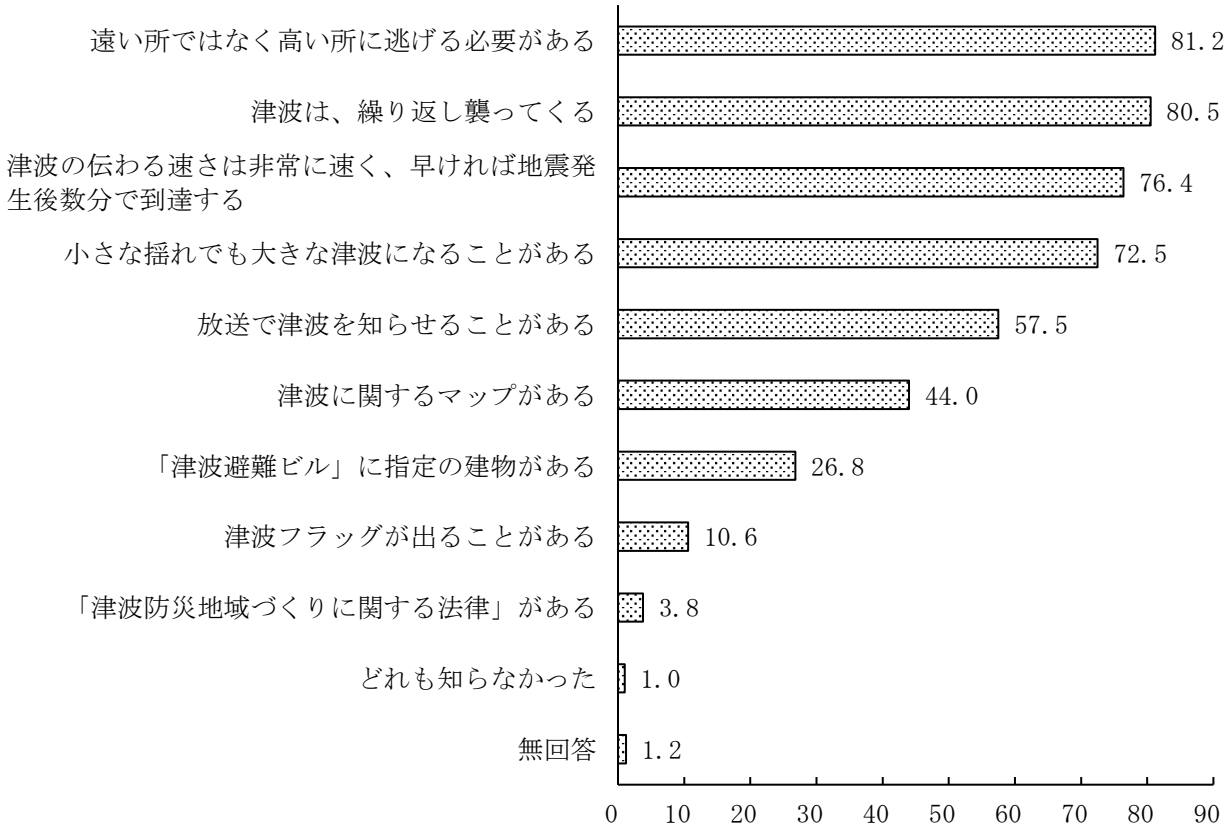
１　地震対策の取組み（問１～問４）

県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

▼津波に対する知識や理解（問３）

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が 81.2%で最も多く、次いで「津波は、繰り返し襲ってくる」が 80.5%であった。［図表１］

図表１　津波に対する知識や理解（複数回答）（n=1,213）（%）



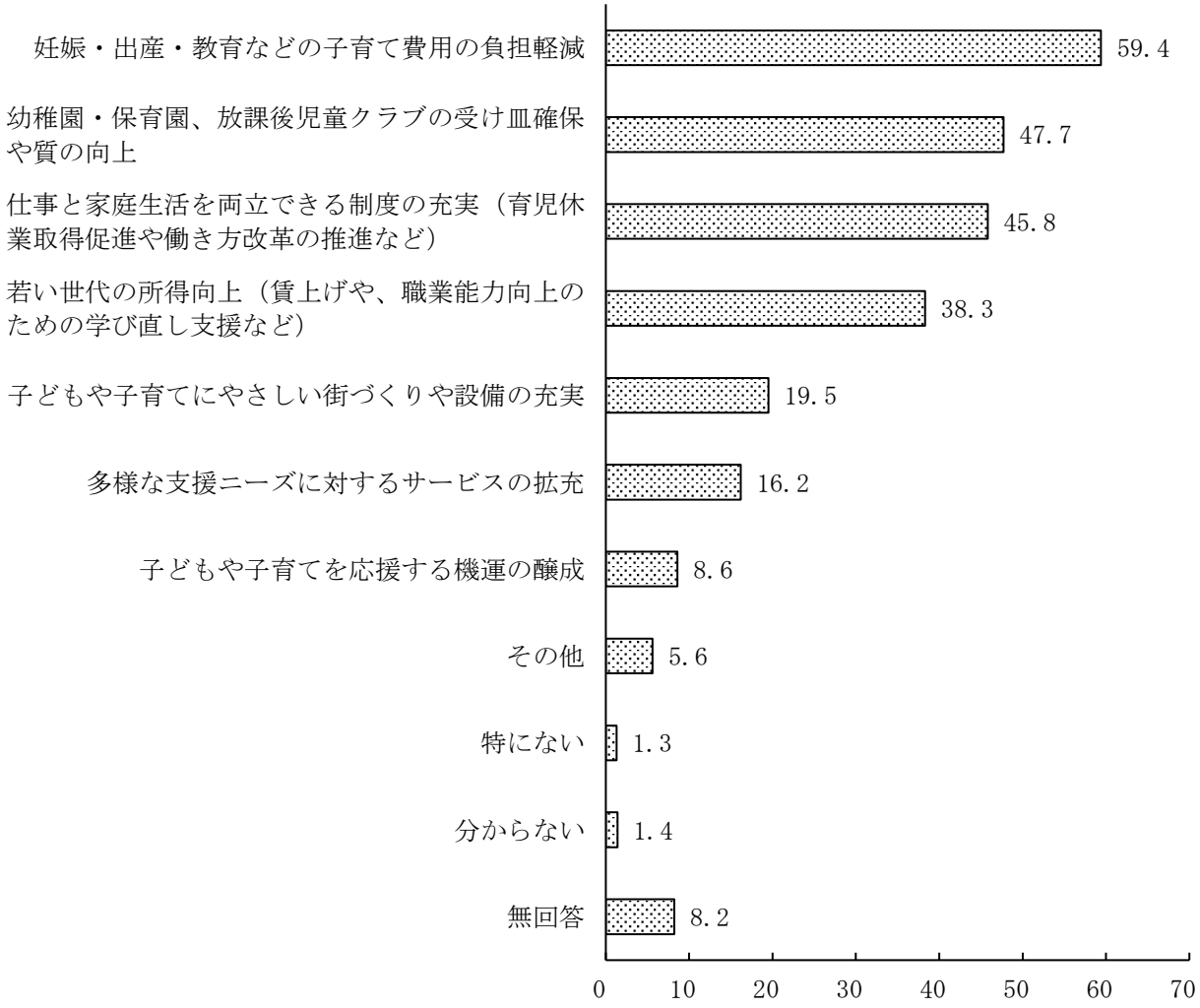
２　子ども・子育て支援（問５～問６）

県では、子育てに喜びや生きがいを感じ、安心して子どもを生み育てることができるよう、「子ども・子育て支援」の充実に取り組んでいます。今回、希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組みなどについて調査しました。

▼希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組み（問６）

希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会を実現するために特に重要だと思う取組みについて複数回答（３つまで選択可）で尋ねたところ、「妊娠・出産・教育などの子育て費用の負担軽減」が 59.4％で最も多く、次いで「幼稚園・保育園、放課後児童クラブの受け皿確保や質の向上」が 47.7％であった。［図表２］

図表２　希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組み（複数回答）（n=1,213）（%）



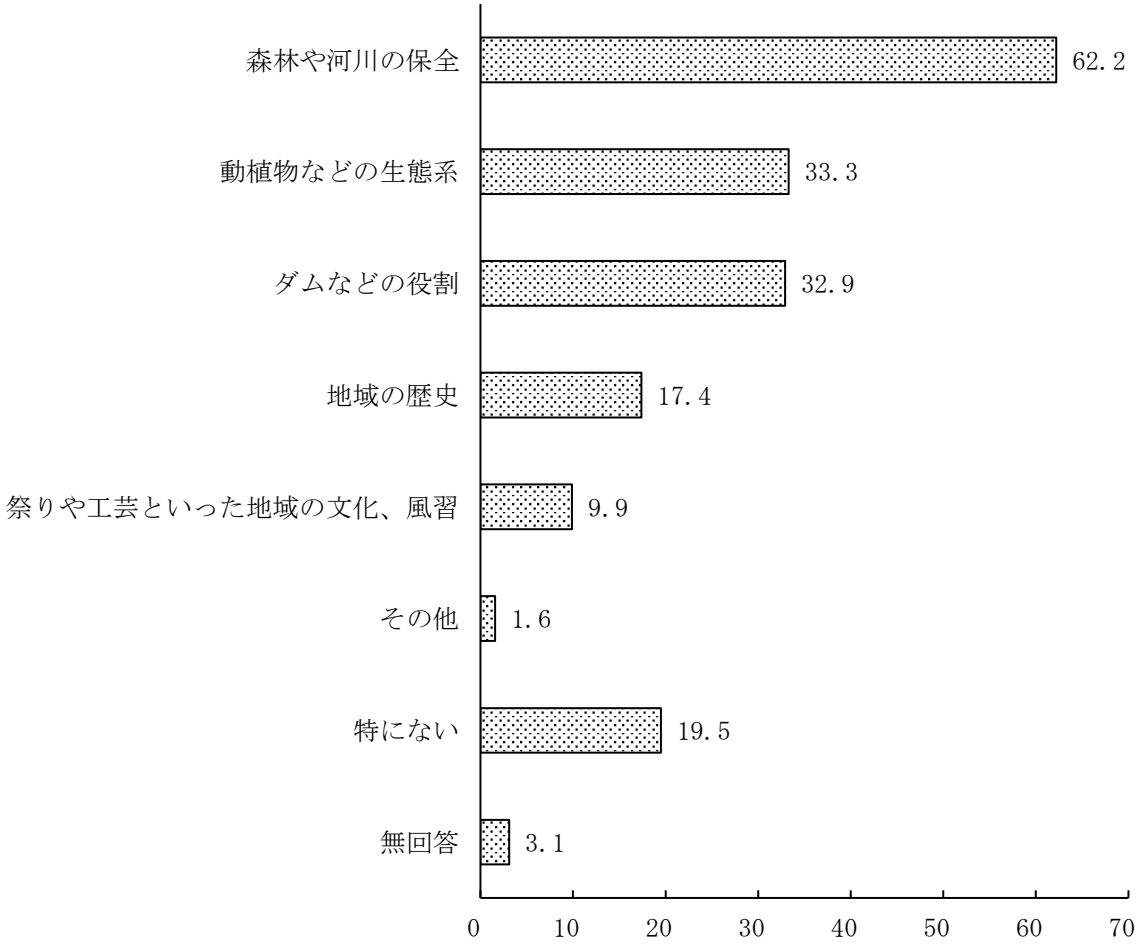
３　かながわの水源地域（問７～問９）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、かながわの水源地域への関心について調査しました。

▼かながわの水源地域への関心（問８）

かながわの水源地域について知りたいことについて複数回答で尋ねたところ、「森林や河川の保全」が62.2％で最も多く、次いで「動植物などの生態系」が33.3％であった。［図表３］

図表３　かながわの水源地域への関心（複数回答）（n=1,213）（%）



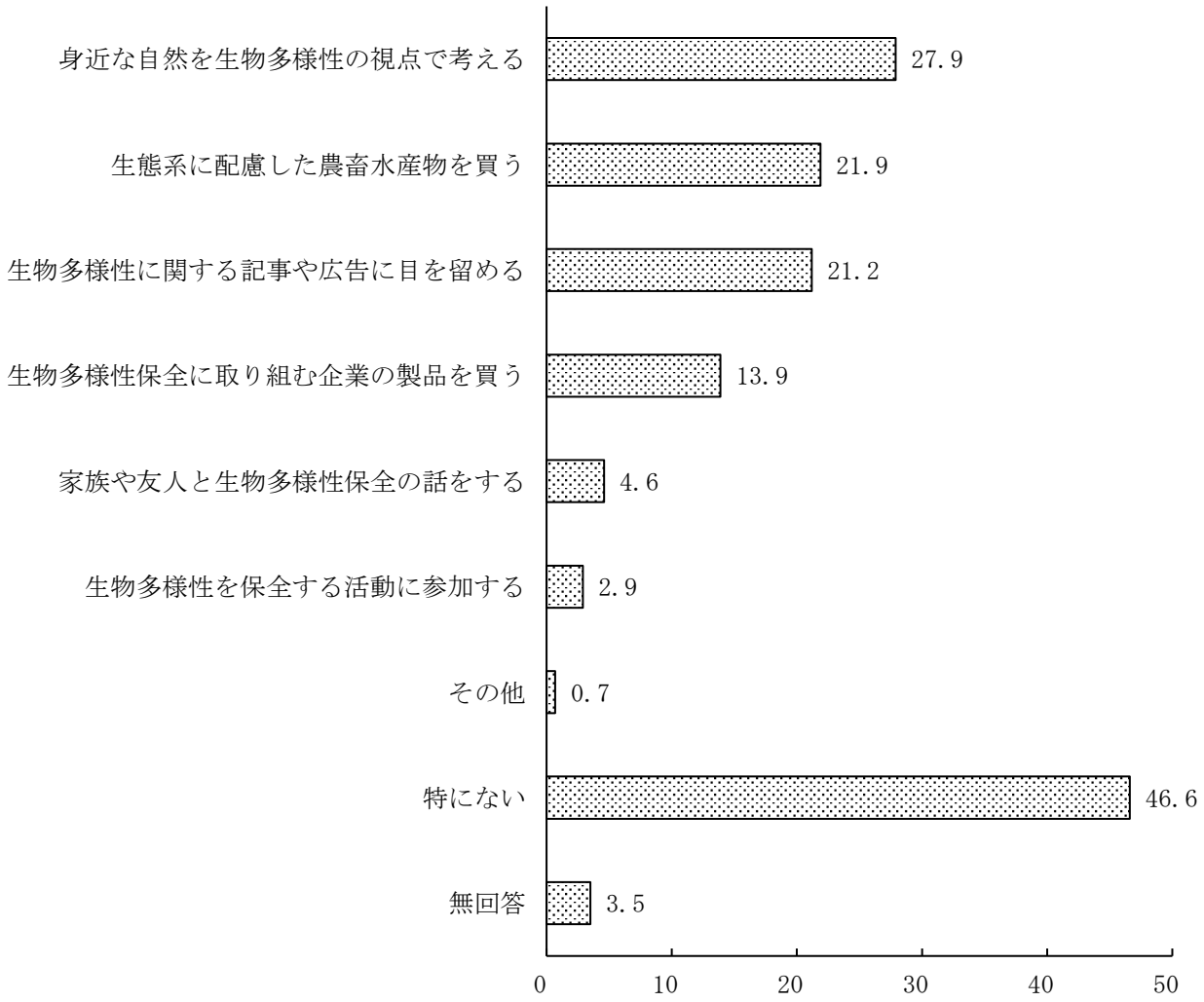
４　生物多様性（問 10～問 12）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 11）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 27.9%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」 が 21.9%であった。［図表４］

図表４　生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）（n=1,213）（%）



５　「未病改善」の取組み（問 13～問 16）

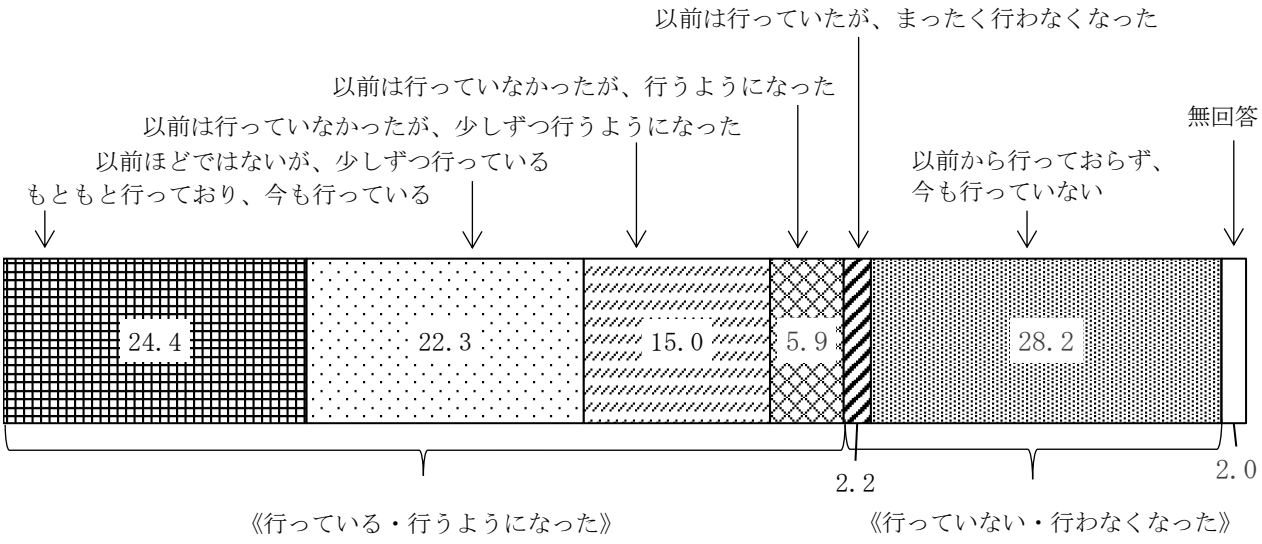
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を２つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去１年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

▼過去１年間の「未病改善」の取組状況（問 14）

過去１年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」(24.4%)、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」(22.3%)、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」(15.0%)、「以前は行っていなかったが、行うようになった」(5.9%) を合わせた《行っている・行うようになった》は 67.6%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」(28.2%) と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」(2.2%) を合わせた《行っていない・行わなくなった》は 30.4%であった。[図表５]

図表５　過去１年間の「未病改善」の取組状況（n=1,213）（%）



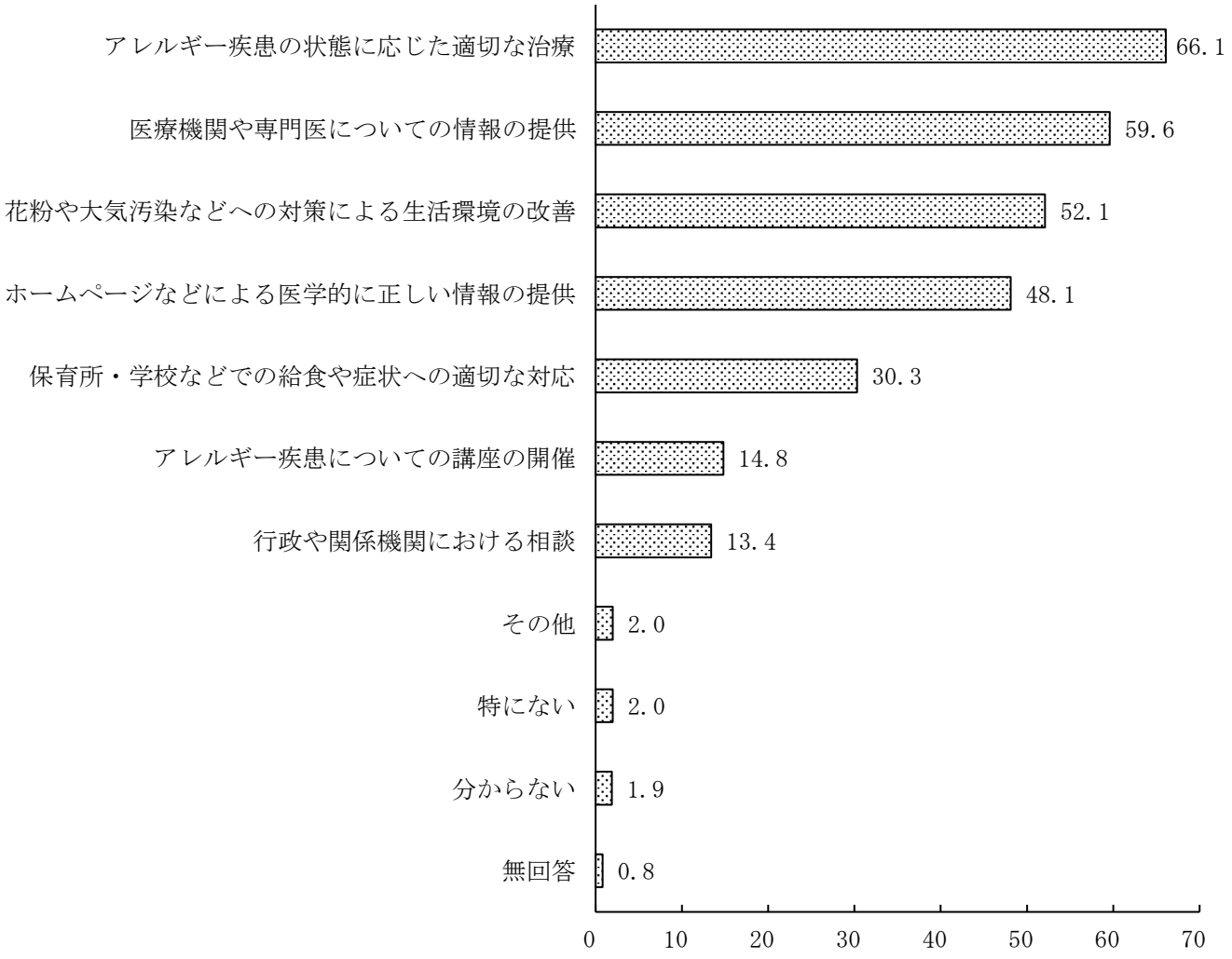
６　アレルギー疾患（問17～問19）

県では、「神奈川県アレルギー疾患対策推進計画」に基づき、アレルギー疾患患者などを支援する環境づくりとして、県民が適切な情報を入手し、患者が生活の質の維持向上のための支援を受けられるよう体制の整備に取り組んでいます。今回、アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援などについて調査しました。

▼アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（問 19）

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「アレルギー疾患の状態に応じた適切な治療」が 66.1%で最も多く、次いで「医療機関や専門医についての情報の提供」が 59.6%であった。［図表６］

図表６　アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）（n=1,213）（%）



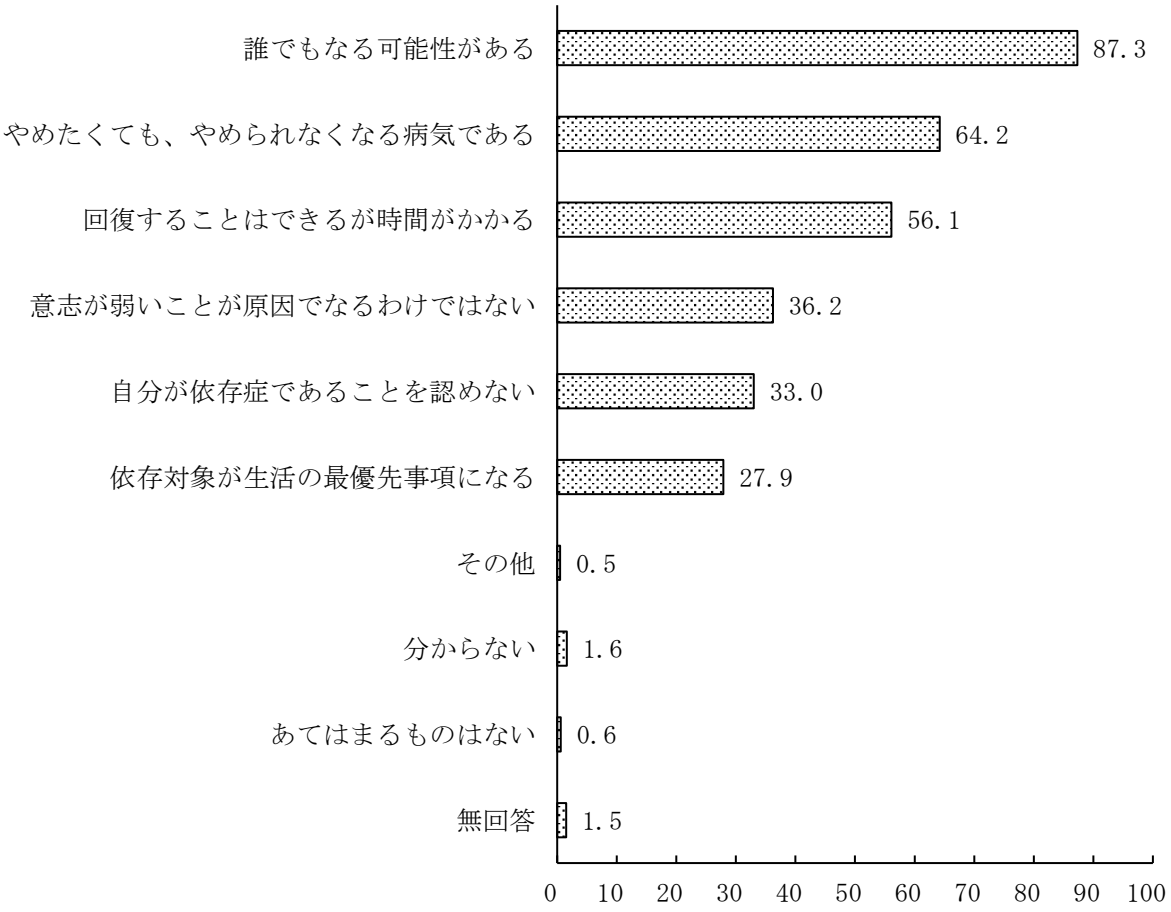
7　依存症に対する意識（問 20～問 22）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 20）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 87.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 64.2%であった。[図表７]

図表７　依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,213）（%）



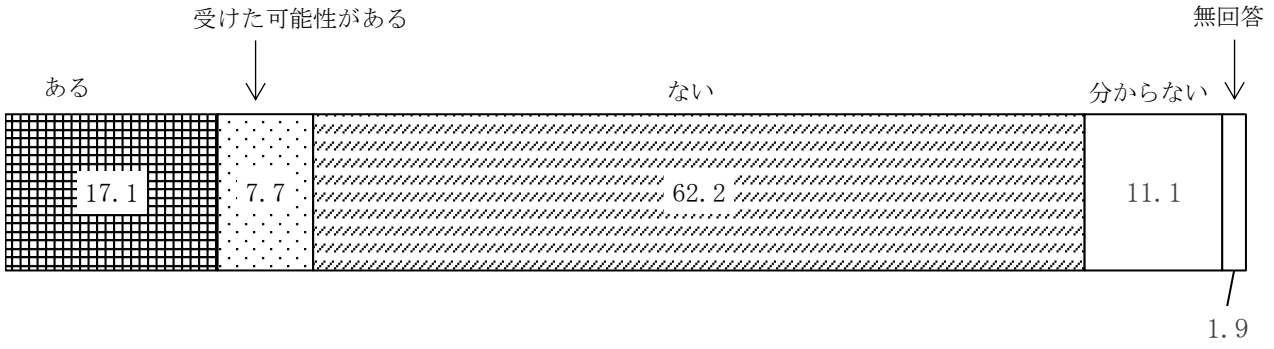
８　肝炎対策（問 23～問 24）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 24）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 17.1%であった。一方、「ない」が 62.2%であった。[図表８]

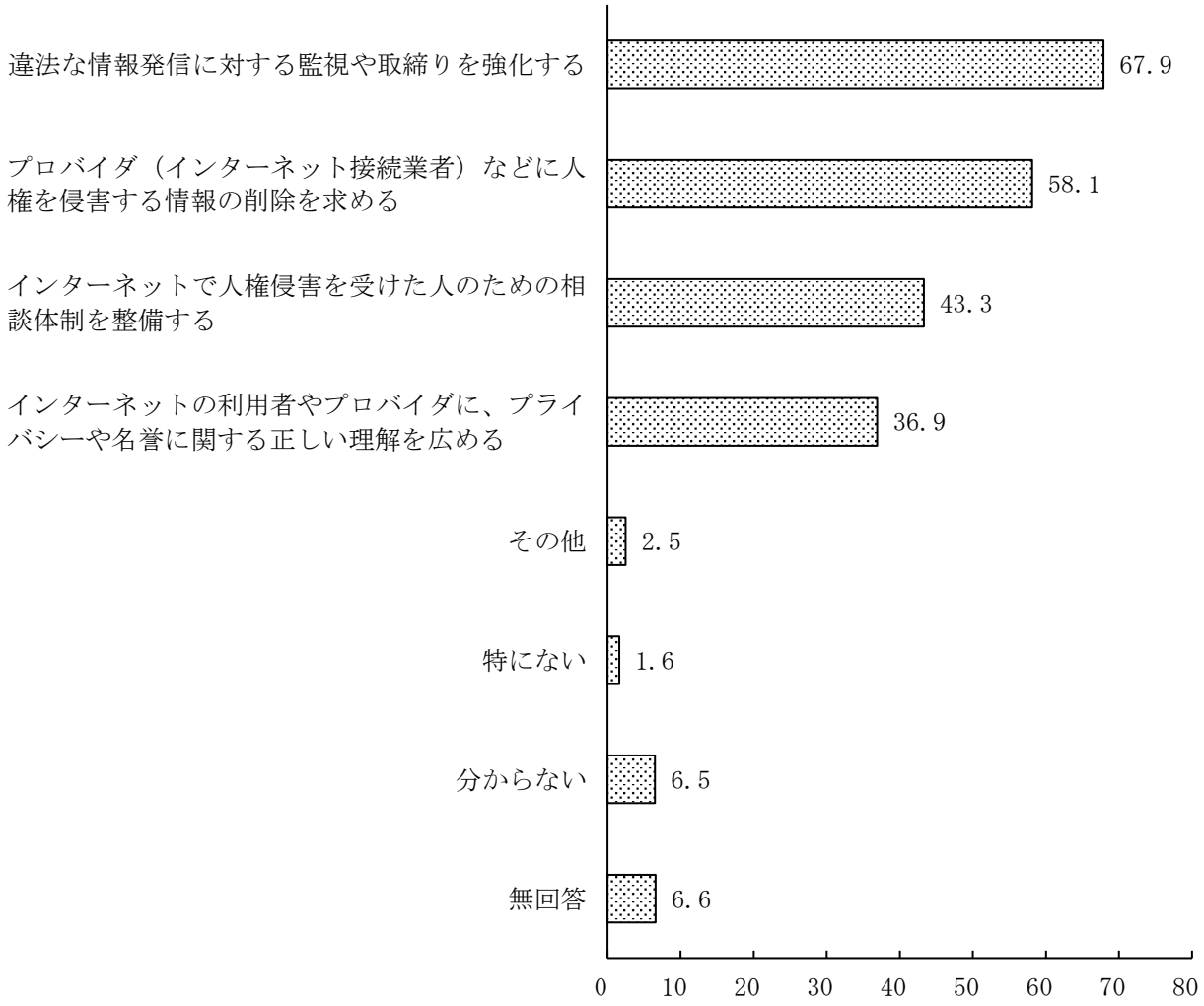
図表８　「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,213）（%）



９　かながわの人権（問 25～問 28）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うことなどについて調査しました。

▼インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（問 26）

インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答（３つまで選択可）で尋ねたところ、「違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する」が 67.9％で最も多く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）などに人権を侵害する情報の削除を求める」が 58.1％であった。［図表９］

図表９　インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（複数回答）（n=1,213）（%）